

基調講演

最近のソルベンシー規制の動向と ERM – 保険行政の現場から –

金融庁 監督局保険セクター分析担当課長補佐 植村 信保 氏

【酒井】 それでは、基調講演に移らせていただきたいと存じます。基調講演といたしまして、金融庁監督局保険セクター分析担当課長補佐であられる植村信保様より、「最近のソルベンシー規制の動向と ERM – 保険行政の現場から –」という演題でお話をいただきたいと存じます。植村様は、1990 年東京大学をご卒業後、安田火災海上保険、現損害保険ジャパンに入社され、その後、格付投資情報センターを経て 2010 年 4 月よりご現職にあられます。保険会社のモニタリング及び健全性確保を目的とした監督規制等の整備に従事されておられます。主な著書には、直近で日本経済新聞社より『経営なき破綻 平成生保危機の真実』等があります。日本アクチュアリー会の ERM 委員会のアドバイザーでもあられ、早稲田大学より博士号を取得されています。それでは、植村様、どうぞよろしく願いいたします。

最近のソルベンシー規制の動向と 保険会社の ERM

– 保険行政の現場から –

2011年5月23日 JARIPフォーラム

植村 信保(金融庁)

(本講演の意見に関する部分は植村個人によるものです)

【植村】 ご紹介いただきました植村です。今日はよろしく願いいたします。まず、JARIP のこのフォー

ラムが無事今回開催の運びとなったということを担当にお喜び申し上げます。

私は今、行政の一員ということなのですが、今日は保険業界の方も大勢おられると思いますけれども、この 2 カ月間、震災後いろいろわからないことが多い中で、非常に迅速なご対応をいただいているように思います。阪神大震災のときは国会からも、保険はどうなっているのだ、なぜ出ないのだと、随分と矢面に立ったというように、私は当時外にいましたが記憶しています。しかし、今回はむしろ保険業界はよくやっているという声を中心のようです。今後どのようなことになるかはわかりませんが、この 2 カ月間、皆様のご尽力の賜物で、とてもスムーズに物事が進んできているのではないかと、行政の一員として心から感謝しております。ただ、支払い関係は、表面的にはピークが見えてきたというところとは思いますが、本当の意味ではこれからということでしょうし、まだまだ対応していかなければいけないことは相当出てくると思います。加えて、今回の震災では、保険の限界というものが広く見えてしまったわけですが、これを機に、保険ではどのようなことができるのかを考えていくのが非常に大事なのではないかと考えております。

今、ご紹介していただきましたとおり、私は、行政と言いましても、実はまだようやく 2 年生というのでしょうか、去年の 4 月に金融庁に入りまして、それ以前は R&I、格付投資情報センターに 14 年間